

作文コンクール “Leading to the Future” 優秀賞作品

大阪府立生野高等学校 3年 中江 瑞季さん

小学校四年生の時、担任の先生が教室に貼った大きな詩のポスターをよく覚えている。――「教室は間違えるところだ」。先生は私たちが授業で手を挙げないときは、いつもその詩を読んできた。「間違えることを恐れちゃいけない」「間違った者を笑っちゃいけない」。そんな当たり前で大切なことを私たちに伝えてくれた。初めの頃、勉強が得意ではなく殆ど手を挙げることのなかった私は、先生の授業を通して少しずつ積極的に発言出来るようになっていった。間違えることも多かったが、何かにチャレンジすることの大切さを学ぶことができた。次第に自分の考えを発言出来るようになり、自分とは違う考えを知ることによって視野が広がり、授業に参加することが楽しくなった。

高学年になると、私は児童会や応援団に参加するようになった。それまでは、誰かがやってくれるし面倒だから、と避けてきた役割を自分からやりたいと思うようになっていた。自分自身でも考え方の変化を実感していた。その時も先生は、優しく声を掛けてくださった。そんな先生の何気ないメッセージには、私を見守り続ける愛情が息づいていたのだと、今ならわかる。先生が見てくれているという安心の中で、私は何を恐れることなく様々なことにチャレンジし、成長することができたのだろう。

小学校生活最後の日。四年生の時の担任の先生が卒業証書を手渡してくれた。先生は「卒業おめでとう。立派になったね。」と声を掛けてくださった。様々な思い出が蘇り、涙を堪えきれなかった。あの日のことが忘れられない。その時の先生の顔を思い出すと、六年間見守ってくださっていたことへの感謝で胸がいっぱいになる。高校生になった今、私は小学校教師をめざしている。

現在、いじめや不登校など学校を取り巻く様々な問題が存在しており、子どもにとって学校が安心の場ではなくなっている。だからこそ私は、学校を子どもが安心して学べる場所にしたい。――教室は安心の場でなければならない。これは私の経験則だ。間違った友だちを笑ったり、自分と違う人間をからかったりすることのない教室をつくっていきたい。そういう教室の中でこそ、一人一人が安心して居場所を見つけ、互いの価値観を肯定し合えるようになるのだと思う。

そのために必要なことは、発言の場をつくることだ。自分の意見を伝えたり、他者の意見に耳を傾けたりすることで、互いを認め合い、学びへの意欲が増す。自分の好きな分野や得意なことを知り、出来なかったことが出来るようになる。その経験が安心の教室づくりに繋がるのではないだろうか。

そのような学びの場をつくり出せるよう、私自身が教育について深く学び、様々な人と関わる中で成長していきたい。そして、これからも何事にも恐れず挑戦する姿勢を持ち続け、教師になるという夢を叶えたい。